

(作成年月日) 2025 年 9 月 10 日

麻酔科、集中治療部に、過去に通院・入院された患者さんへ
(臨床研究に関する情報)

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られる検査結果などの診療情報を用いて行います。このような研究は、厚生労働省・文部科学省の「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」(令和3年3月23日制定、令和5年3月27日一部改正。)に従って実施しています。この研究に関するお問い合わせや、診療情報をこの研究に利用することにご了承いただけない場合は、以下の連絡先・相談窓口へご照会ください。診療情報の利用のご了承いただけなかった場合でも、それが理由で不利益を受けることはありません。また、この研究については、香川大学医学部倫理委員会の審議にもとづく医学部長の許可を得ています。

[研究課題名]

経尿道的膀胱腫瘍切除術を受ける患者において、
5-アミノレブリン酸塩酸塩が術後悪心嘔吐に与える影響を調べる後ろ向き研究

[研究の目的]

本研究では、膀胱癌に対する経尿道的膀胱腫瘍切除術(TUR-BT)において診断補助として用いられる5-アミノレブリン酸塩酸塩(5-ALA)内服が、術後悪心・嘔吐(postoperative nausea and vomiting: PONV)に及ぼす影響を検討します。5-ALAは腫瘍検出に有用である一方、副作用として悪心・嘔吐が報告されています。PONVは患者の早期離床や退院を妨げる重要な要因であることから、本研究では過去の手術データを用いて、5-ALA内服の有無とPONV発生率との関連を統計的に解析し、5-ALA内服がPONVに与える独立した影響を明らかにすることを目的としています。

[研究の方法]

○対象となる患者さん

2017年4月1日から2025年9月30日までの間に、当院で全身麻酔下に膀胱癌に対して経尿道的膀胱腫瘍切除術(TUR-BT)を受けた患者さん

○利用する情報

情報：電子カルテ記録(年齢、性別、身長、体重、BMI、ASA-PS、手術時間、麻酔時間、5-ALA内服の有無、術前の悪心・嘔吐の有無、術中のオピオイド使用量、輸液量、予防的制吐薬の使用(薬剤名)、PONV発生の有無(定義：術後48時間以内の嘔気または嘔吐)、PONV既往、乗り物酔い既往、喫煙歴(1か月以内の喫煙))、麻酔記録

○上記情報の利用開始予定日

倫理委員会承認日

[研究責任者]

香川大学医学部附属病院 麻酔・ペインクリニック科 医員 小田 志門

(研究分担者)

香川大学医学部麻酔科学講座 助教 植村 直哉

この研究について、研究計画や関係する資料、ご自身に関する情報をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体に支障となる事項以外はお知らせすることができます。

研究に利用する患者さんの個人情報に関しては、お名前、住所など、患者さん個人を特定できる情報は削除して管理いたします。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

[連絡先・相談窓口]

香川県木田郡三木町池戸 1750-1

香川大学医学部麻酔科学講座 担当医師 小田 志門
電話 087-898-2223 FAX 087-891-2224